

校長室だより

ゆうかり通信

第3号 令和5年9月12日(火)

【校章に込められた思い】

伊良林小学校の校章が、「ユーカリ」マークに決まったのは、今から73年前、昭和25年のことです。校章が決められた時のことについて、当時校長だった坂本守道先生のこんなコメントが残っています。



「当時の小学校の校章といえどこでも見られる桜の花びらの中に『小』の文字が入った市販のものだった。何かいい校章はないかと考え、私の師範時代の恩師で美術の小林長太先生にお願いしたところ、伊良林小学校のシンボル『ユーカリ』の長い葉を結んだ校章をデザインして下さいました。ユーカリの細長い葉を結んだのは、子供、親、教師の団結を表している。小林長太先生は、『大きな学校が団結し、名を上げるよう願望をこめてデザインした』と語られた。私は先生の着想に感激した。」（創立100周年記念誌より）

校章の意味、ぜひ子どもたちにも伝えてほしいと思います。

【木を切る】

先日お伝えしたように、夏休みに、校門横の「ユーカリの木」を伐採しました。本校のシンボルであり、これまでとても大切にしてきた木でしたので、その伐採については、市教委と何度か協議し、樹木医の意見を取り入れた上で判断しました。「おやじの会」「連合自治会」「民生児童委員の会」など、地域の方々にも伐採の判断に至った経緯を説明したところです。

さて、学校園の崖側に、「バナナの木」があるのをご存じでしょうか。実は、このバナナの木、葉が茂って地域の方々にご迷惑をおかけしているということもあり、今回、周辺の樹木の剪定、除草と合わせて、伐採する判断をしました。このバナナの木は、前川先生が伊良林小学校に児童として在籍していた時からあったそうです。多くの人々の思いが込められている可能性があることから、「本当に伐採してもよいのだろうか」と悩みました。前校長や前PTA会長、朝から校門に来て下さる泉さんにも、このバナナの木について何か知っていることはないか伺ったところです。

昨年度、120周年を終えた伝統のある伊良林小学校。学校にある樹木一本にも、多くの方々の思いが込められています。私も伝統校の校長として、様々な場面で責任の重さを感じています。